

I 調査表 中学校 [音 楽 (一般)]

採択基準	観 点	出版社	
		教育芸術社	教育出版
1 教科の目標からの配慮	(1) 教科の目標を達成するために必要な内容が的確にもられているか。	◎	◎
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真 図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	(1) 楽曲や音楽活動の程度が学年の発達段階に応じるよう配慮されているか。	◎	◎
	(2) 生徒の興味・関心にそって音楽活動がなされ、楽曲への理解が深まるような展開が工夫されているか。	◎	○
	(3) 生徒の主体的・創造的な音楽活動に必要な配慮がされているか。	◎	○
	(4) 生徒が多様な音楽活動を楽しみながら、楽曲のよさや美しさを感じ取ることができるような工夫がされているか。	◎	◎
	(5) 全ての生徒にとって見やすいよう、楽譜、挿絵、写真、配色等が鮮明で、音楽を視覚化して表すよう工夫される等、学習への意欲を高め、内容の理解を深めるよう配慮されているか。	◎	○
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	(1) 基礎的・基本的な内容が無理なく身に付くよう系統的な題材配列がされているか。	◎	◎
	(2) 内容の関連や発展を生かした学習展開が工夫されているか。	○	◎
	(3) 主体的に取り組みながら音楽的な見方・考え方を働かせ、相互に関わり合いながら、多様な音楽活動を体験できるよう工夫されているか。	◎	◎
	(4) 地域の特性や生徒の生活経験及び、個人差に応じた指導ができるような弾力性をもっているか。	◎	○
	(5) 挿絵、図表、写真等が学習展開に有効に活用できるよう工夫されているか。	◎	○
	(6) まとめや評価の観点、明確になるよう工夫されているか。	◎	◎
4 全体的な特色	(1) 選択基準1～3の観点及び体裁を含めた全体的な特色。	◎	○

Ⅱ 適当と認めた理由 中学校〔 音楽（一般） 〕

採択基準	適 当 と 認 め た 理 由
1 教科の目標からの配慮	(1) ・三つの資質・能力とそれに対応した学習内容や教材がバランスよく位置づけられている。また、音楽と生活、社会、文化との関わりも学べるように構成されている。（教芸） ・学びのねらいや音楽を形づくっている要素から学習が系統的に積み重ねられ、主体的・協働的に学べるように工夫されている。（教出）
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘索性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	(1) ・小学校からの学習のつながりや学年ごとの発達段階を考慮した学習内容（音域に配慮した曲・他分野との関連・MyVoice・MyMelody・鑑賞曲と器楽とを関連づけた学習）が所々で組み込まれ、学年が上がるごとに徐々に難易度が上がるように系統的に配列されている。（教芸） ・Let's Singでは、発達段階を考慮した内容が組み込まれ、楽曲の構成の分かりやすい教材が掲載されている。また、創作では、リズムや旋律を段階的に組み立てていけるよう学年ごと内容が工夫されている。（教出） (2) ・学年に合った学習目標と学習活動が明示され、音楽を形づくっている要素を手がかりにしながら学習できるように工夫されている。また、曲のイメージや背景、時代を理解しながら音楽活動ができるように工夫されている。歌唱では、聴きなれた曲、新曲がバランスよく組み込まれている。特に、新曲は、中学生の心情に寄り添った曲が多く、親しみやすさがある。（教芸） (3) ・「深めよう！音楽」では、自分の考えや知覚・感受をワークシートに記入して整理したり言語活動を行ったりすることで学習が進められるよう工夫されている。また、随所にキャラクターを登場させ、問いや手順、言語活動の例などを吹き出して示すことで、主体的・協働的な学習を促すよう工夫されている。（教芸） (4) ・両社とも、日本の伝統音楽の鑑賞学習では、唱歌や長唄などを実際に体験することで楽曲の特徴やよさを学ぶことができるように工夫されている。また「器楽」の教科書とも合わせて学ぶことができるよう関連づけられている。 ・歌唱や鑑賞の学習では、指揮やリズム打ちと関連させた内容を組み合わせることで、体験的な活動を通して楽曲のよさがとらえられるように工夫されている。（教芸） ・歌唱や鑑賞の学習では、曲を比較することを多く取り入れ、形式や楽曲の特徴がとらえられるように工夫されている。（教出） (5) ・学習活動に効果的な写真や吹き出しが数多く使用され、適度な余白から生まれる見やすさ、文字のフォントの工夫、色の鮮明さ、ルビの多さなどの配慮が見られる。また各教科書の巻頭ページには、インパクトのある写真と各界の方のメッセージを掲載し、学習への意欲を高め、学びに向かう力や見方・考え方の育成の一助となるような配慮がなされている。（教芸）
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	(1) ・それぞれの学年の歌唱・創作・鑑賞における基礎的・基本的な内容が3年間を通して系統的に配列されている。また、発声やリズム、創作、深める学習が曲と曲の間に配置され、様々な活動と関連させながら無理のない学習ができるような配列になっている。（教芸） ・「学びのユニット」では、既習事項をいかしながら次の音楽活動につなげられるような配列の工夫がされており、学びを深めるための曲や活動、手がかりとなるヒントが示されている。また各教材には学習目標、新出用語・記号などが示されている。（教出） (2) ・歌唱と鑑賞では、主教材と関連した教材が提示され、比較学習が行えるように工夫されている。更に、学習が発展的に深まっていくように、巻末には「深めてみよう+」が設けられ、そこでも主教材と関連した曲を紹介し、主教材のねらいを発展的に扱うことができるように工夫されている。（教出） (3) ・歌唱や創作、鑑賞、体験活動には「注目するポイント」が示され、それを手がかりに表現を工夫したりワークシートで整理したりすることで協働的に学習ができるよう工夫されている。（教芸） ・歌唱と鑑賞の学習では、関連曲との比較をすることで、主体的・対話的な学習ができるように工夫されている。また、ワークシートに自らの気づきを書き込んで、意見交流できるような工夫もされている。（教出） (4) ・民謡や郷土の祭り、芸能が多数紹介され、地域に伝わる音楽が学習できるよう工夫されている。また、他教科・他教育との関連も図られ、様々な音楽が紹介されている。また、「中学生の音楽1」では、歌唱と器楽の両方で演奏できる曲を組み込み、個人差に応じた学習が行えるように配慮されている。（教芸）

	(5) 「曲のイメージにつながる写真」「歌詞の説明」「作詞者・作曲者・演奏者の言葉」「丁寧な手順が示されている創作シート」など、学習活動を進めていく上で必要な情報が視覚的に分かりやすく掲載されている。また学習目標や音楽を形づくっている要素、学習活動、用語や記号を定位置で示すなどの配慮がされている。(教芸) (6) ・各教科書の巻末に学習する教材の譜例を示した「音楽を形づくっている要素のまとめ」が掲載されている。また曲ごとに学習目標が1つ示されていて学習のねらいが明確になっている。ワークシートを用いた学習ではポイントを絞って学習できるように工夫され、学習の評価や振り返りがしやすいように配慮されている。(教芸) ・「学びのユニット」に、各ユニットでの学習のねらいや曲、活動、学習を深めるための手がかりとなるヒントなどが一覧として示されている。比較教材が多く、気づいたことや感じ取ったことなどを教科書に直接書き込むことで学習の振り返りや評価がしやすいように工夫されている。(教出)
4 全体的な特色	(1) 写真や資料も多く、学習者の立場に立って色調やレイアウトなどが工夫されている。学年の発達段階に合った学習目標が設定され、中学校三年間だけでなく小中9年間のつながりも意識して身につけたい力がつくように編成されている。また、日本の音楽のよさを学び、生涯に渡って音楽とどう関わり社会とどうつながっていくかなどについても幅広く学ぶことができるように工夫されている。(教芸)

教科名	発行者	教科書名
音 楽 (一般)	教育芸術社	中学生の音楽 1 2・3 上下

上記発行者の教科書を選定した理由

・調査票における採択基準・観点の1 (I) から4 (I) までの13項目中12項目が優れた評価となった。

【構成のよさ】

・3年間の学習内容が、学習指導要領に示された三つの資質・能力と対応するように系統的にバランスよく配置されている。特に「中学生の音楽1」では、小学校の学習のつながりや発達段階を考慮した内容が位置づけられていて、無理なく学習が進められるように構成されている。

・音楽と生活や社会、文化との関わりを考えるページが掲載されている。「中学生の音楽2・3下」では、SDGsや、震災復興支援、著作権についてなど音楽を通して社会とどのようにつながっていくかを考える内容が掲載されている。

・作詞者や作曲者の言葉、各界の方や演奏者、中学生の言葉を掲載することで、曲の背景や音楽との向き合い方などの様々な学びができるように構成されている。

・「リズムゲーム」や「リズムアンサンブル」など楽しみながら取り組める教材が掲載されている。

・生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育み、様々な音楽に興味関心がもてるように、「ポピュラー音楽（海外編・日本編）」と「社会を映し出す音楽（ジャズ・バレエ音楽など）」が掲載されている。

【教材のよさ】

・歌唱や鑑賞の学習では、体験的活動（指揮やリズム打ち）を通して楽曲のよさがとらえられるように工夫されている。

・「深めよう！音楽」では、学習の進め方の手順が示されているワークシートが用いられ、それに沿って学習を進めていくことで主体的で協働的な学びができるように工夫されている。また、まとめや評価にも活用できるように工夫されている。

・歌唱や創作などのキャラクターの吹き出しが、問いかけや言語活動の例、感受の例になっており、表現の工夫や学習するときの視点、友との学び合いにつながるように工夫されている。

・各地に伝わる郷土の音楽を多数紹介することで、自分の地域に伝わる音楽の学習ができるように配慮されている。また伝統芸能や伝統音楽を鑑賞や歌唱と関連させながら学べるように工夫されている。

・中学生の心情に寄り添った新曲が掲載され、自分と重ねながら歌詞の意味を考えて学習できるように工夫されている。

・共通教材に「心の歌 歌い継ごう日本の歌」と明記し、日本の歌をよさを感じとりながら継承していこうという気持ちで学べる工夫がされている。

・「音楽を形づくっている要素のまとめ」では、各学年で学習する教材の譜例を示し、学習内容と関連させて諸要素がとらえられるように工夫されている。

【資料や写真、楽譜などの工夫による学びやすさ】

・学習に必要な写真や図、説明などが多数使用され、視覚的に分かりやすく、見やすいように色やフォントなどが工夫されている。

・鑑賞では、楽譜の着目してほしい箇所の色を変え、構成が視覚的に分かるように工夫されており、学習目標達成に近づくための内容になっている。

・年表は、日本と西洋を関連させていて、歌唱や鑑賞で学習する内容に対応して活用できるように工夫されている。

・学習目標、学習活動、音楽を形づくっている要素を定位置に示したり、学習目標を1曲に対して1つ設定したりすることで生徒が学びやすいように配慮されている。

以上の理由から、教育芸術社の「中学生の音楽 1 2・3 上下」を選択した。

I 調査表 中学校 [音 楽 (器楽)]

採択基準	観 点	出版社	
		教育芸術社	教育出版
1 教科の目標からの配慮	(1) 教科の目標を達成するために必要な内容が的確にもられているか。	◎	◎
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	(1) 楽曲や音楽活動の程度が学年の発達段階に応じるよう配慮されているか。	◎	○
	(2) 生徒の演奏技能に応じ、意欲的に器楽学習へ取り組めるよう配慮がされているか。	◎	◎
	(3) 生徒の主体的・創造的な音楽活動に必要な配慮がされているか。	◎	○
	(4) 生徒が多様な音楽活動を楽しみながら、楽曲のよさや美しさを感じとれるよう工夫されているか。	◎	◎
	(5) 全ての生徒にとって見やすいよう工夫され、楽譜、挿絵、写真、配色等が鮮明で、学習への意欲を高め、学習活動に役立つよう配慮されているか。	◎	○
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	(1) 基礎的・基本的な内容が無理なく身に付くよう系統的な題材が配列されているか。	◎	○
	(2) 楽器や演奏形態に応じて内容が精選されており、他分野・他領域との関連を図れるよう工夫されているか。	○	◎
	(3) 主体的に取り組みながら音楽的な見方・考え方を働かせ、相互に関わり合いながら、多様な音楽活動を体験できるよう工夫されているか。	◎	◎
	(4) 施設・設備や環境に即応し、地域の特性や生徒の生活経験及び、個人差に応じた指導ができるような弾力性をもっているか。	◎	◎
	(5) 挿絵、図表、写真等が学習展開に有効に活用できるよう工夫されているか。	◎	○
	(6) まとめや評価の観点が、明確になるよう工夫されているか。	◎	◎
4 全体的な特色	(1) 選択基準1～3の観点及び体裁を含めた全体的な特色。	◎	○

Ⅱ 適当と認めた理由 中学校 [音楽(器楽)]

採択基準	適 当 と 認 め た 理 由	
1 教科の目標からの配慮	(1)	・音楽でつける力と関連させた学習内容と教材が楽器ごとに掲載されていて、「学びの地図」で音楽を形づくっている要素との関係が明示されている。(教芸) ・吹く、弾く、叩く楽器ごとに、つける力と関連させた学習内容が掲載されていて、「学びのユニット」(教師用指導書)で明示されている。(教出)
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性	(1)	・楽器の奏法、名称、音域などの知識に加え、段階的に技能の習得ができるように楽曲が配列されている。リコーダーではアルトリコーダーだけでなくソプラノリコーダーでも演奏できるように配慮されている。箏ではいろいろな奏法が掲載されていて、発達段階に応じた学習を行うことができるように配慮されている。(教芸)
本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	(2)	・両社とも、演奏者からの言葉が掲載され楽器や演奏に興味を持てるよう工夫されている。 ・楽器の種類や演奏の紹介が生徒の興味関心を引き出し、曲の難易度を少しずつ上げていくように配慮されている。(教芸) ・曲数が多く、生徒の聴き慣れた曲が掲載されている。また1つの楽曲を違う楽器で演奏する工夫もされている。(教出)
	(3)	・「深めよう！音楽」は、キャラクターの吹き出しで表現の工夫や演奏のポイントを示していて、主体的・対話的な学習につながる内容となっている。また、使用する楽器を選択して行うアンサンブル学習やリズムパターンの例をもとにギター伴奏を創作するような教材が掲載されている。(教芸)
	(4)	・楽器ごとに参考曲が紹介され鑑賞と関連づけられている。My Melodyでは反復・変化を用いた箏の旋律づくりをワークシートの手順で進めていくことで楽しみながら学習できるように工夫されている。(教芸) ・「音楽のおくりもの(一般)」の鑑賞曲を楽器で演奏したり、参考曲を聴きながら吹く楽器・弾く楽器の比較をする学習が掲載されている。(教出)
	(5)	・白を基調として、楽譜や説明、図が引き立つように余白をとり、見出しのフォントや配色を変えることで、必要な情報が見やすくなるように工夫されている。また姿勢や構え方の写真の角度が学習者を意識したものになっている。写真を豊富に使い、学習に役立つように矢印や線で指や手の動きを示す工夫がされている。(教芸)
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い	(1)	・「楽器の紹介」「名称」「演奏方法」「教材曲」という流れで学習できるように構成が統一されている。教材曲も、小節数や難易度に配慮されていて、楽器の基本的・基礎的な技能が自然に身に付くように配列されている。また運指や奏法に重点を置いて学習できるように選曲が配慮されている。(教芸)
「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	(2)	・創作や鑑賞などと関連した曲を複数掲載している。また、1つの楽曲が様々な楽器用に編曲されており、関連をもって学習できるようになっている。また和楽器を学ぶ際に重要とされている唱歌について詳細に示され、楽器による唱歌の違いも学ぶことができるよう工夫されている。また、箏や三味線では、基本的な調弦法に内容が精選され、練習曲が掲載されている。(教出)
	(3)	・「アンサンブルセミナー」が掲載されていて、アーティキュレーション、パートの役割、曲の構成について協働的に学習することができる。(教芸) ・吹く楽器や弾く楽器の音の出る仕組みや音色などを比較する学習が組み込まれ、自分の考えをまとめて話し合う活動が展開できるように工夫されている。更に発展として楽器の背景にある文化や伝統についても学習できるように工夫されている。(教出)
	(4)	・両社とも環境に応じて楽器を選択して学習ができるように内容が工夫されている。 ・リコーダー学習では、アルトとソプラノの両方を学ぶことができる。また打楽器の学習内容も充実し個々に応じて学習ができるよう配慮されている。(教芸) ・太鼓や篠笛など地域に伝わる祭りや芸能と関連させた学習ができ、太鼓の種類や姿勢、バチ、かまえ方や打ち方などの内容が充実している。(教出)
	(5)	・リコーダーの運指を楽譜の横に記載し、音孔が一目で分かるようにリコーダーの色を変えることで、運指を確認しながら演奏することができる。またギターのコード表はコントラストが鮮明で、指で押さえる弦が分かりやすく、将来的にも利用できるものである。また、演奏者や同世代の言葉、演奏写真の掲載など興味関心を引き出す工夫がされている。(教芸)
4 全体的な特色	(6)	・具体的な学習活動の例示や練習・演奏のポイントに沿って評価を行うことができる。またアンサンブル曲で学習のまとめを行うこともできるように工夫されている。(教芸) ・学びのねらいとポイントが示され、まとめの曲で評価しながら学習のまとめができるように工夫されている。(教出)
	(1)	・楽器の歴史、和楽器こぼれ話などの資料も豊富に掲載され楽器に興味をもちながら、段階的に無理なく技能が身に付くよう写真等を有効に使用して学習が進められるように工夫されている。また「楽器の図鑑」や「楽しもう！和楽器の音楽」では様々な楽器や音楽と文化との関わりなどについても学べるように工夫されている。(教芸)

教科名	発行者	教科書名
音 楽 (器楽)	教育芸術社	中学生の器楽

上記発行者の教科書を選定した理由

・調査票における採択基準・観点の1(1)から4(1)までの13項目中12項目が優れた評価となった。

【構成のよさ】

・各楽器の奏法などが詳細に示され、基本的な奏法が段階的に身に付くように学習内容が構成されている。また学習指導要領に示された三つの資質・能力との関係が「学びの地図」に明示されている。

・音楽と生活、社会、文化との関わりなどが学べるような内容が組み込まれている。
 ・主に学習されている楽器（リコーダー・ギター・箏・・・）の順に構成され、各楽器について同じ流れで学習できるように工夫されている。
 ・生涯にわたり音楽に親しみ楽器に興味関心がもてるように、フォークギターやエレキギター、バンドの紹介が掲載されている。また「楽しもう！和楽器の音楽」では和楽器に取り組んでいる中学生の写真や言葉を載せ、和楽器にも親しみがもてるように工夫されている。

【教材のよさ】

・各楽器の学習の導入では、演奏者からの言葉や鑑賞曲が紹介され、興味関心が高まるように工夫されている。教科書のはじめに掲載されているアンサンブルは、これから始まる器楽の学習を前に目標や見通しを持ちながら学習を行うことができるよさがあり、学習のまとめとしても活用できるようにも工夫されている。

・主体的対話的な学習を引き出すために、「深めよう！音楽」が掲載されている。学習の手順が具体的に示され、キャラクターの吹き出しが表現の工夫のヒントになっていることで、深い学びにつながるように工夫されている。

・使用する楽器を選択して行うアンサンブル学習やリズム伴奏の創作が掲載され、創造的な活動ができるように工夫されている。また、My Melodyは、「中学生の音楽（一般）」と関連づけられていて、ワークシートに沿って学習することで旋律づくりが行えるように工夫されている。

・それぞれの教材には、学習活動が示されていて練習・演奏のポイントから評価が行えるように工夫されている。

・地域の特性や環境に応じた学習ができるように和楽器や打楽器の内容も充実している。また、巻末には様々なジャンルの音楽をアンサンブルで楽しめるように曲が掲載されている。

【資料や写真、楽譜などの工夫による学びやすさ】

・資料が豊富に掲載され、楽器に興味をもちながら学習が進められるように工夫されている。

・白を基調として見出しのフォントや色を工夫することで必要な情報が見やすいように工夫されている。また、奏法を中心に、写真や図などを豊富に使用し、学習者にとって分かりやすいアングルになっている。リコーダーの運指やギターのコード表も、音孔や弦の押さえる場所が分かるようにカラーで示されており、指を確認しながら演奏することができる。

・小学校とのつながりや発達段階に応じた学習ができるように、アルトリコーダーの学習ではソプラノリコーダーの楽譜が並列されている。また打楽器では奏法が写真を用いて視覚的にも分かりやすく示されている。

以上の理由から、教育芸術社の「中学生の器楽」を選定した。

I 調査表 中学校 [美術]

採択基準	観 点	出版社		
		開隆堂	光村図書	日本文教出版
1 教科の目標からの配慮	(1) 教科の目標を達成するために必要な内容が的確にされているか。	◎	◎	◎
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	(1) 題材の造形的、技能的な内容が生徒の発達段階に適するよう配慮され、個人差に応じた幅をもっているか。	○	◎	◎
	(2) 生徒がイメージを豊かにふくらめながら造形活動をするよう、学習活動に工夫されているか。	○	○	◎
	(3) 生徒の興味・関心・意欲を高め、主体的・対話的に活動できるよう、題材や導入の工夫がされているか。	◎	○	◎
	(4) 用具の使い方など安全性へ配慮されているか。	◎	◎	◎
	(5) 全ての生徒にとって読みやすいよう工夫され、絵、写真、図表、配色、コントラスト等が鮮明で、創作への意欲を高めるよう配慮されているか。	◎	◎	◎
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	(1) 領域の目標に即し、基本と発展を考慮し、全学年を通して、関連的・連続的に扱える題材配列になっているか。	◎	◎	◎
	(2) 表現と鑑賞を相互に関連させた指導ができるよう工夫されているか。	◎	◎	◎
	(3) 主体的に活動をしながらか造形的な見方・考え方を働かせ、相互に関わり合いながら、主題や表現方法について考え、作品などに対する見方や感じ方などについて広げ、深められるよう配慮されているか。	○	◎	◎
	(4) 思いを具体的に表現するために必要な、技法、技術や材料、用具に関する資料や解説は適切か。	◎	◎	◎
	(5) 学習を豊かにし、個に応じた表現を助ける資料として、図版、写真等が多面的で、生徒の学習展開にとって適切なものになっているか。	◎	◎	◎
	(6) まとめや評価の観点が、明確になるよう工夫されているか。	◎	○	◎
4 全体的な特色	(1) 選択基準1～3の観点及び体裁を含めた全体的な特色。	◎	○	◎

Ⅱ 適当と認めた理由 中学校 [美 術]

採択基準	適 当 と 認 め た 理 由	
1 教科の目標からの配慮	(1)	全社とも、美術科の目標を踏まえ、全題材を通して総合的に資質・能力を育成する構成となっており、豊富な資料により、理解や表現の工夫ができるように配慮されている。また、美術が生活や社会の中で活用される様子が載せられるなど、生活や社会と美術とのつながりを感じられるよう配慮されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 (本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等)	(1)	全社とも、発達段階に応じた材料や道具、題材が取り上げられている。複数の表現が紹介されており、個人差に応じた幅をもっている。光村では、「みんなの工夫」として個々の制作の流れが示されており、各自の主題に合った工夫に目を向けやすくなっている。日文では、1つの大きな題材の中に、複数の表現活動が取り上げられており、生徒の実態により題材や表現に工夫できるよう配慮されている。
	(2)	全社とも、題材名やリード文に工夫があり、導入により生徒がイメージをふくらめられるようになっている。また、発想・構想の手立てや制作過程が示されており、制作のイメージがもてる。日文では基本的な技法を示すだけでなく、生徒が試しながら表現の可能性を広げられるよう多くの表現が掲載されており、その表現から更に発想を広げられるように工夫されている。
	(3)	全社とも、豊富な作品や制作の様子が掲載されており、生徒が興味を持って主体的にイメージを広げながら学習活動に取り組めるよう工夫されている。日文は「造形的な視点」が問いかけの形で示されており、自然と思考し、対話をしたくなるよう工夫されている。また、生徒が考えを伝えあったり、相談したりしながら協働して造形活動を行う様子が多く紹介され、多様な考え方をもとに、発想したり考えたりすることを促す工夫がされている。
	(4)	全社とも、生徒が必要な時にいつでも確認ができるよう、教科書の最後に、技術面を支える資料が添えられており、用具の安全な使い方などが適切に示されている。「注意しよう」「！」の表示により、わかりやすく記述している。
	(5)	全社とも、項目が整理されており、見やすく、理解しやすいレイアウトになっている。UDフォントやカラーユニバーサルデザインが使われ、見やすさに配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い (「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価)	(1)	全社とも、1年と2・3年とに教科書が分けられており、2冊、あるいは3冊を通して系統立てられ、発達段階ならではの構成となっている。領域ごとに、学年の目標に応じた題材が掲載されており、学年に応じて資質・能力が高まるように工夫されている。
	(2)	全社とも、導入時に鑑賞を行えるよう写真が掲載されている。光村は、一つの題材のページの中で、鑑賞⇒表現⇒鑑賞という授業の流れを示している。光村と日文は、表現の題材を含めた全ての題材に鑑賞活動を位置付けており、表現と鑑賞の関連を強く意識している。
	(3)	全社とも、作り手の活動や言葉が掲載されており、主題と表現の工夫について言語活動により表現を深めることができるよう工夫されている。開隆堂は「学習の視点」として、光村は「表現」「鑑賞」の学習の進め方として、活動を示している。日文は「造形的な視点」の中で、題材の中心的な問いを投げかけており、生徒が主体的に考え、対話等の活動を生み出すよう工夫されている。
	(4)	全社とも、教科書の最後に、技術面を支える資料が添えられており、生徒が自分の思いを基に造形活動を充実させられるよう、基本となる用具の使い方や、安全面に関する配慮点などが、適切に示されている。
	(5)	全社とも、題材に関わる多くの作品の図版が掲載されている。また、日本の伝統文化に関わる題材や作品、諸外国の作品や建築物などの多様な写真、QRコードを通したWebコンテンツが掲載されており、学習を豊かにし、個に応じた表現を助ける工夫がなされている。
	(6)	全社とも、題材のはじめに学習の目標が的確に示されている。開隆堂と日文では、資質・能力の3つの柱に合わせて目標が示されており、教師と生徒が互いに学習指導要領に基づく目標を共有した上で授業を行えるようになっている。また、教師にとっては、3観点に即して振り返りを促したり、評価をしたりすることができるよう工夫されている。
4 全体的な特色	(1)	全社とも、学習の目的や視点を示す題材名がつけられたり、豊富な資料、写真等が掲載されたりしており、生徒に主体的・対話的な学習を促す工夫がみられる。日文は、1年、2・3年上・下の3分冊となっており、発達段階に応じて美術の学びを積み上げられる構成となっている。

教科名	発行者	教科書名
美術	日本文教出版	美術 1, 美術 2・3 上, 下

上記発行者の教科書を選定した理由

美術科では、5名の調査研究委員により、厳正に調査・研究を行い審査した結果、標記の教科書を選定することとした。どの教科書も、新学習指導要領の趣旨を踏まえた内容となっているが、選定理由として特に以下の点について評価した。

○資質・能力の3つの柱に即した「学びの目標」が示され、目標に迫るための「造形的な視点」として、色や形などの造形要素や、そこから生まれる効果などに関する問いかけにより、生徒の主体的・対話的な学びが自然に生まれるよう工夫されている。

○多様な表現や、発想・構想の方法の紹介により、基本的な技能の伝承にとどまらず、生徒が自分の主題にあった表現を自ら生み出す深い学びにつながるよう工夫されている。

○生徒が制作に没頭する姿と併せ、友達と鑑賞しあったり、意見交換をしたりする姿が多く掲載されており、他者と関わりながら自己を深める学びを印象づけている。

○作品の写真が、作例としてカタログのように配置されるのではなく、生活や社会の中で使用されている様子が多く掲載されていたり、身近なことから主題を見出す様子が取り上げられており、生活や社会と美術とのつながりを、3分冊構成によって段階的に学べるよう配慮されている。

I 調査表 中学校〔保健体育〕

採択基準	観 点	出版社			
		東京書籍	大日本	大修館	学研
1 教科の目標からの配慮	(1) 教科の目標を達成するために必要な内容が的確にもられているか。	◎	○	◎	○
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	(1) 分量・内容・程度が生徒の心身の発達段階に応じて配慮されているか。	◎	◎	○	○
	(2) 生徒の運動経験や学習経験、興味・関心に応じ、主体的・対話的に課題の解決に向けて学習ができるよう工夫されているか。	◎	◎	○	○
	(3) 実感を伴う理解が図られるよう、体育分野や保健分野、他教科、生活等への関連について配慮されているか。	◎	◎	◎	○
	(4) 用語の解説や記号、計量単位などが適切で、見出しや文章表現が分かりやすく工夫されているか。	○	○	◎	◎
	(5) 全ての生徒にとって読みやすいよう工夫され、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等が鮮明で学習意欲を喚起するように配慮されているか。	◎	○	○	○
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	(1) 体育理論では、内容の明確化と体系化が図られているか。保健分野では、健康安全に関する事項の系統化が図られているか。	◎	◎	◎	◎
	(2) 体育理論、保健分野ともに、各内容の配列や関連付けに工夫が見られるか。	◎	◎	◎	◎
	(3) 生徒が体育や保健の見方・考え方を働かせながら、主体的に、相互に関わり合いながら活動に取り組めるように、多様な指導方法及び学習形態が工夫されているか。	◎	◎	◎	◎
	(4) 体育理論では、知識の重要性を実感できるように配慮されているか。保健分野では、心身の健康や安全について配慮されているか。	◎	◎	◎	◎
	(5) さし絵、写真、図表等の内容が適切で、正確であるか。	◎	◎	◎	○
	(6) まとめや評価の観点が、明確になるよう工夫されているか。	◎	○	○	○
4 全体的な特色	(1) 選択基準1～3の観点及び体裁を含めた全体的な特色。	◎	○	◎	○

Ⅱ 適当と認めた理由 中学校 [保健体育]

採択基準	適 当 と 認 め た 理 由	
1 教科書の目標からの配慮	(1)	見つける→学習課題→課題の解決→広げるの流れで1時間が構成されており、知識・思考・判断・表現等の目標達成に向けて流れが作りやすい。また課題把握後に資料に基づき考えを促す活動が位置付けられており思考・判断を伸長する活動を入れやすい。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	(1)	比較的端的な説明や表現により、全体の分量が適切で、様々な生徒に合わせた内容となっているところがよい。
	(2)	「広げる」にあたる項目で、対話的な活動ができるよう工夫されているのがよい。
	(3)	単元以外の関連について、教科書内及び他教科と区別されており、学習をより深くするための工夫がされているがよい。
	(4)	学習課題で示された「キーワード」の解説が巻末にまとめられており、生徒が自分で調べやすいよう工夫されている点が良い。
	(5)	本文と資料の配置の統一性がある点や、関連性のある資料が巻末にまとめてある点などの工夫がされており、読みやすくなるような配慮がありよい。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	(1)	章の扉の部分にその章の学習に関連する小学校・高校の学習内容が明記され、小～高の学習の系統性が示されているのがよい。
	(2)	各章ごとに他分野や他教科との関連が示されているのがよい。
	(3)	各章ごとに「活用する」問題があり、見方・考え方を教えやすい。また主体的に生徒相互の関わり合いの活動がしやすい工夫がされているがよい。
	(4)	資料と関連づけて学習することで知識が定着できるよう、学習課題の欄に「キーワード」が示されているがよい。
	(5)	キャラクターによる説明、同世代の日常生活をイラストで説明など、より主体的に考えられるよう工夫されている。
	(6)	各章末に知識の習得を確認する問題と、知識を活用して考える問題を設け、まとめの観点が明確になるよう工夫されている。
4 全体的な特色	(1)	「見つける→学習課題→課題の解決→広げる」で構成され、生徒が自己の課題を捉え追究しやすい。また資料が精選されておりよい。

教科名	発行者	教科書名
保健体育	東京書籍(株)	新しい保健体育

上記発行者の教科書を選定した理由

全社ともに採択基準は満たしていたが、特に東京書籍の教科書は以下の点において優れている。

- ①1時間の流れが「見つける→学習課題→課題の解決→広げる」で構成され、学習の流れが理解しやすく、主体的な学びにつながる事が期待できる。
- ②資料・統計等がより新しく、また幅広く推移等がわかりやすく構成されており、学習意欲を喚起するよう工夫されている。
- ③学習内容に関連する動画等、50個のコンテンツへのアクセスができる二次元コードが掲載され、ICT化への配慮がされている。
- ④各章の扉（最初のページ）では道徳科の各内容項目との関連が示され、関連を図った指導がしやすい。

など各項目で他社と比べ高い評価が得られた。

I 調査表 中学校 [技術・家庭科(技術分野)]

採択基準	観 点	出版社		
		東京書籍	開隆堂	教育図書
1 教科の目標からの配慮	(1) 教科の目標を達成するために必要な内容が的確にもられているか。	◎	◎	◎
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真 図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	(1) 生徒の発達段階や生活実態等に配慮した題材配列になっているか。	◎	◎	◎
	(2) 身近な生活の問題から、生活を工夫し、創造するような題材構成の工夫がなされているか。	◎	◎	◎
	(3) 生徒が興味・関心をもって追究し、生活を実感的にとらえられるように配慮されているか。	◎	◎	◎
	(4) 材料と加工の技術、生物育成の技術、エネルギー変換の技術、情報の技術の内容構成において、安全面や衛生面への配慮がなされているか。	◎	◎	◎
	(5) 全ての生徒にとって読みやすいよう工夫され、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等が鮮明で分かりやすく、生徒の意欲を高めるよう配慮されているか。	◎	◎	◎
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	(1) 学習指導要領の内容が有機的に関連をもって学習ができるように組まれているか。	◎	◎	◎
	(2) 生徒の生活や社会との関連性、社会変化への対応に配慮した題材の配列となっているか。	◎	○	○
	(3) 技術に関わる見方・考え方の視点で生活事象を捉え、主体的に相互に関わりながら活動できるよう、生徒の実態にあわせた題材の取扱いがなされているか。	○	◎	◎
	(4) 題材が集団や個別で学ぶ内容、社会との連携に発展する内容で構成されているか。	◎	◎	◎
	(5) さし絵、写真、図表等の内容が適切かつ正確であり、時代の進展に応じる内容上の配慮がされているか。	◎	○	◎
	(6) まとめや評価の観点が、明確になるように工夫されているか。	◎	◎	◎
4 全体的な特色	(1) 選択基準1～3の観点及び体裁を含めた全体的な特色。	◎	○	○

Ⅱ 適当と認めた理由 中学校 [技術・家庭科(技術分野)]

採択基準	適 当 と 認 め た 理 由	
1 教科の目標からの配慮	(1)	各編の中の配列が「技術の原理・原則と仕組み」、「技術による問題解決」、「社会の発展と技術」という順番になっており、見方・考え方の視点を生かして問題を発見し、解決できるよう工夫されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	(1)	各編の中の配列が「技術の原理・原則と仕組み」、「技術による問題解決」、「社会の発展と技術」という順番になっており、見方・考え方の視点を生かして問題を発見し、解決できるよう工夫されている。
	(2)	さし絵、写真、図表、配色等が鮮明で大きさに無駄がない（必要な部分のみにトリミングしてある）。製作工程などは写真や図版を多く用いて示し、製作の流れが詳しくわかるよう配慮されている。
	(3)	技能面だけでなく、問題解決の過程に対して取り組んだ内容や新たな問題解決に向けての課題などを振り返ることができるようになっており、今後につなげられるよう工夫されている。
	(4)	実習中等の安全な作業の方法や事故防止のポイントを、「安全マーク」の中で記し、安全面の配慮が適切になされている。
	(5)	さし絵、写真、図表、配色等が鮮明で、見出しやイラスト、マークにより学習の流れや関連性がわかりやすく示され、生徒が追究への意欲が持てるように構成されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	(1)	各領域のはじめに、小学校の学習や、他教科との関連を意識した表記があり、カリキュラムマネジメントを意識した作りになっている。新しく入ってきた 双方向コンテンツの内容では、複数の題材を提示し使用する言語も難易を分けた例を提示している。
	(2)	領域（編）はじめに、身の回りの技術や工夫を「見方・考え方」「技術の最適化」として学習の方向性を示している。1～3章の作りとなり、1章は技能知識の習得2章では課題解決学習 3章では、工夫発展や技術の最適化などこれからの技術のあり方を考えさせる展開になっている。
	(3)	各編での作りが統一され、見方考え方を示し、知識技能の習得、問題解決に取り組み、広げる学習の流れを4編繰り返し行うことで、主体的に学ぶ学習の積み重ねができるよう工夫されている。
	(4)	題材ごと「考えてみよう」「やってみよう」「話し合ってみよう」と学習への取り組み方が示されている。話し合わせたい題材にはキャラクターを登場させるなどの工夫が見られる。
	(5)	写真はトリミングや背景をカットされていて、すっきりと見やすく、実習における技能のポイントがわかるように配慮されている。たくさんの情報を詰め込んだため、図写真はやや小さいが鮮明な印刷である。
	(6)	2章末では問題解決の評価、改善を示し、3章へで評価活用・新たな課題へとつながる工夫。問題解決学習のまとめの機会を設けている。編末の学習のまとめでは、知識・技能の確認をする。思考判断表現に関わるまとめ、学びに向かう力と3つの評価の観点でまとめが構成されている。
4 全体的な特色	(1)	3社とも、製作することの喜びや技術の最適化を学ぶことのよさを実感できるように工夫されている。 特に、東京書籍は魅力的で長野県の学校で取り組んでいる題材を多く取り入れ、製作・実習の際のつまずきを写真や図で示すなど、円滑に学習できるよう工夫されている。視覚的に見やすく分かりやすく、豊富な原寸大の写真、イラスト、図表が適切に配置され、生徒の学習意欲を高めるよう配慮されている。

教科名	発行者	教科書名
技 術	東京書籍	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創るTechnology

上記発行者の教科書を選定した理由

- ・3年間にわたる技術分野学習の見通しを持てるように、ガイダンスでは豊富な写真資料等を掲載し、身近なところに使われている技術を紹介するなど、構成が工夫されている。
- ・「技術の最適化」を窓口として、教科のねらいを外すことなく指導できるような一貫した構成となっている。
- ・全編、生活や社会の中から問題を発見する場面が位置付けられ、その問題に対し「問題解決カード」をもとに学習を進めることにより、課題が設定されることに加え、思考ツールがリンクされていることにより、技術の見方・考え方を働かせながら問題解決的に学習することができ、「主体的・対話的で深い学び」の実現が期待できる。
- ・防災・安全への取り組みや情報モラルへの対応、伝統・文化に関連する内容などを資料として取り上げ、さらに防災マークや伝統文化マークなどが付与されていることで、現代的な諸課題に対して生徒が興味関心を高められるよう配慮されている。
- ・「技術・家庭科」は、同一の教科であり、技術分野、家庭分野ともに関わり合いを持たせながら学習していく必要がある。教科書についてもその構成や表記の仕方などが共通なものを使用することにより、より効果的な学習ができると考える。

I 調査表 中学校 [技術・家庭科(家庭分野)]

採択基準	観 点	出版社		
		東京書籍	開隆堂	教育図書
1 教科の目標からの配慮	(1) 教科の目標を達成するために必要な内容が的確にもられているか。	◎	◎	◎
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 (本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等)	(1) 生徒の発達段階や生活実態等に配慮した題材配列になっているか。	◎	○	○
	(2) 身近な家庭生活の問題から、生活を工夫創造するような題材構成の工夫がされているか。	◎	◎	○
	(3) 生徒が興味・関心をもって主体的・対話的に追究し、家庭生活を実感的にとらえられるように配慮されているか。	◎	◎	○
	(4) 家族・家庭生活、衣食住の生活、消費生活・環境の内容構成において、安全面や衛生面への配慮がされているか。	◎	◎	◎
	(5) 全ての生徒にとって読みやすいよう工夫され、さし絵、写真、図表、配色、コントラスト等が鮮明で分かりやすく、生徒の意欲を高めるよう配慮されているか。	◎	◎	○
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い (「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価)	(1) 学習指導要領の内容が有機的に関連をもって学習ができるように組まれているか。	◎	◎	◎
	(2) 生徒の家庭生活や地域の行事等の関連に応じられるように配慮されているか。	◎	◎	◎
	(3) 生活の営みに係る見方・考え方の視点で生活事象を捉え、主体的に、相互に関わりながら活動できるよう、生徒の実態に合わせた題材の取扱いがされているか。	◎	◎	○
	(4) 題材が集団や個別で学ぶ内容や家庭との連携に発展する内容で構成されているか。	◎	◎	○
	(5) さし絵・写真・図表等の内容が適切であり、また、時代の進展に応じる内容上の配慮がされているか。	◎	○	○
	(6) まとめや評価の観点が、明確になるよう工夫されているか。	◎	○	◎
4 全体的な特色	(1) 選択基準1～3の観点及び体裁を含めた全体的な特色。	◎	○	○

Ⅱ 適当と認めた理由 中学校 [技術・家庭科(家庭分野)]

採択基準	適 当 と 認 め た 理 由	
1 教科の目標からの配慮	(1)	3社とも教科目標や内容を的確にとらえ、自ら課題をもち、生活をより良くしていこうとする、実践的な態度を育てられるよう構成されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 (本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等)	(1)	衣食住に関する基礎的・基本的な内容が、生徒の発達段階や生活実態などに配慮して題材が配列されている。特に1学年で「食生活と自立」の学習を多くの学校で行っているという実態に応じて配列されている。
	(2)	生徒が自らの生活を振り返り、課題を発見するための発問を、吹き出しやガイダンスの中で自分の生活を振り返る場面や自分について考えられるように配慮されている。
	(3)	身近な生活の問題から、生徒が実態に応じて選択できる実習や事例を幅広く取り上げ、興味、関心を持って生活を実感的に捉えられるよう配慮されている。
	(4)	安全面や衛生面での配慮が必要な場面では、「安全マーク」「衛生マーク」を付し、注意が喚起されるよう工夫されている。
	(5)	各内容に関連した豊富な図版、イラスト、写真、織り込み頁等が豊富で、わかりやすく、生徒が意欲的に学習できるよう配慮されている。QRコードがついていて、画像や映像で視覚的に分かりやすく示すことができる。内容に関連した写真が、新しいかつ鮮明で、原寸大の写真や図表、イラストなども配置され、生徒の学習意欲を高めるよう、配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い (「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価)	(1)	ガイダンス的内容が掲載されており、三年間見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。また、リンクのマークがついており、関連した学習ができるよう工夫されている。
	(2)	章の始めやまとめの部分で「自立度チェック」「考えよう」「話し合おう」「振り返ろう」の掲載があり、生徒が自分の生活を振り返り、主体的に判断して行動できるよう配慮されている。
	(3)	「重要語句のキーワードチェック」「基礎技能ページ」「実践的・体験的な学習内容」を設けており、基礎的・基本的な技能が確実に身につくような内容で構成されている。
	(4)	問題解決的な学習や「まとめ」「振り返り」を設け、よりよい生活を営む能力や実践的な態度が育つ内容で構成されている。
	(5)	3社とも写真やイラストを多く盛り込み、技能が身につくよう工夫されている。東京書籍は、写真や図表が適切に盛り込まれ、特に調理実習の場面では手順や学習の流れがわかりやすく配置されていたり、IIIについても説明されている。
	(6)	3社とも「学習の振り返り」「学習のまとめ」で自己評価の観点を明確にして学習の定着をはかれるよう工夫されている。
4 全体的な特色	(1)	3社とも、自分と家庭生活、さらには広く社会生活との結びつきに目を向け、その中で問題を見つけ解決していくことを学べるように工夫されている。 東京書籍では、多くの中学校では食生活の学習から行われているため、「衣食住の生活」の学習からの配置は実態にあっており、学習しやすい配列になっている。またガイダンスの内容が充実している。 新しい写真(実物大を含む)や図表が適切に盛り込まれており、視覚的に見やすく、わかりやすい。興味関心が高まる工夫がされている。 新学習指導要領にあった内容が沢山盛り込まれている。(金銭管理でのお小遣い帳、衣服のリフォームやリメイク例など) 各章の終わりの学習のまとめでは章ごとに自分の学習の振り返りができ、重要な用語の確認、確かめ、生活に生かすための工夫をまとめて振り返ることができ、基礎的・基本的な知識や技能が身につくよう配慮されている。

教科名	発行者	教科書名
家 庭	東京書籍	新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して

上記発行者の教科書を選定した理由

- ・ 3年間の家庭科学習の見通しが持ちやすくなるように、「自立と共生を目指して」とするガイダンスが見開きで構成されていることから、中学校へ入学した生徒の学習意欲の高まりが期待できる。
- ・ 多くの中学校において、1学年で「衣食住の生活」にかかわる学習を行っているという実態に応じて配列されていることから、生徒にとって学習しやすい構成である。
- ・ わかりやすく使いやすい見開き構成で、実物大写真や図表が豊富に配置されるとともに、折り込みページも充実していることから視覚的に見やすく、生徒の学習意欲を高めるよう配慮されている。
- ・ 主体的対話的で深い学びを実現すべく、様々な場面で試行ツールが取り入れられていることで、対話が助けられ協働が促されることが期待され、深い学びに繋がる。
- ・ 防災教育や持続可能な社会の構築、さらには消費者教育など、現代社会の課題についてもトピックが充実している。
- ・ 「技術・家庭科」は、同一の教科であり、技術分野、家庭分野ともに関わり合いを持たせながら学習していく必要がある。教科書についてもその構成や表記の仕方などが共通なものを使用することにより、より効果的な学習ができると考える。